



第104号

平成21年7月

子育て施設課

電話 0823-25-3144

知っておきたい水の事故

こどもは水遊びが大好きです。そのため水際に近づくことが多く、池や川に物が落ちてそれを拾おうとして転落して溺れたり、用水路に蓋が^{ふた}されていないことを知らないで落ちてしまったり、天候や季節により水位や周辺の環境が変化して事故を起こすことがあります。

近所にある池や河川について、最近の情報を知っておく必要があります。決して子どもだけで川や池、用水路には行かせない、近寄らせない指導が必要です。

統計では



0歳における全死亡の事故に対し、不慮の事故が占める割合は4%、その中で不慮の溺死は1割です。



1歳から4歳の全死亡の事故に対しての不慮の事故は全死亡の約30%で、そのうち不慮の溺死は約1/3です。5歳から9歳までの全死亡における不慮の事故死も約1/3です。そのうち不慮の死は約1/4を占めます。

0歳、1歳では溺死の4分の3が浴槽の中での事故ですが、2歳における浴槽での溺死は、1/5、3歳では1/7と減少しています。逆に、1~4歳までではレクリエーション中とされる水泳中の溺死は報告がありませんが、5歳以降では次第に増えてきています。

年齢別に溺死の誘因

動き始める乳児期後半から浴槽や洗濯機、バケツ、大きな水槽での溺死の報告が見られるようになります。

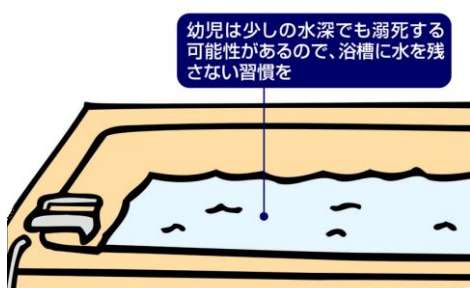
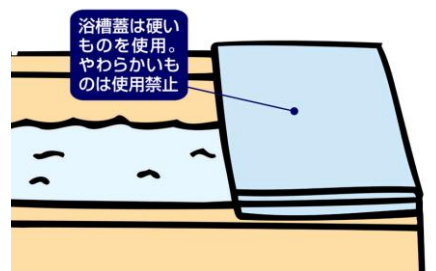
1～2歳では、浴槽での“転落”や野外での水遊び用のプール、溝、池での溺水が報告され始めます。

3歳以降では、川、沼、海における水泳中の事故が増えてきます。トイレの中に頭を突っ込んだ溺死の報告もあります。

幼児期のこどもは、水の中で遊ぶことが大好きです。こどもは重心が高いため頭から転落する危険があります。そのためバケツの水、湯船、こども用プールなどでこども一人で遊ばせておくことは大変危険です。こどもは水の中で倒れたら起き上がるのが難しく、水位20cmでも溺れてしまうことがあります。

浴室での溺死を予防するためには

- 2歳未満のこどもがいる場合、残り湯は排水すること。
- 外鍵を付けて浴室に入れないようにすること。
- 浴槽の蓋は歪まない材質のものにし、蓋をした際に隙間ができないようにしておくこと。
- 洗濯機の水は抜いておくこと。
- 水遊びをさせる際には、指導者が付き添い、ライフジャケットを必ず着用させるなど安全対策をしたうえで、積極的に遊ばせることが大切です。



ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>